

はじめに

本コーナーでは、大学院紀要『BRÜCKE』第30号の発行を記念した特集をお送りいたします。特集は、下記4つのコンテンツによって構成されます。

1. 『BRÜCKE』の歩み
2. ドイツ語学専攻の先生方からの特別寄稿
3. 大学院生たちの日々 ―研究と日常について―
4. 総目次（第11号～第29号）

1では、『BRÜCKE』の創刊号から第30号に至るまでの道程を年表にまとめて掲載してあります。個別の注目点や出来事については本文で触れていません。次に2では、この10年のあいだに本学の大学院委員を歴任された、ドイツ語学科の柿沼義孝先生（2006年度、2007年度、2012年度の委員）と大重光太郎先生（2013年度、2014年度の委員）に、近年におけるドイツ語学専攻の状況変化について日ごろからお考えになっていることを寄稿していただきました。先生方からの寄稿に続く3では、ドイツ語学専攻生8名全員（2016年度在籍者）から、自分にとっての大学院生活とはどのようなものかを雑感として寄せてもらいました。最後に4には、『BRÜCKE』の第11号から第29号までの総目次が掲載してあります。

この特集を企画するのにあたり、過去と現在、教員と学生の視点を交叉させることによって、『BRÜCKE』とドイツ語学専攻についての描写が立体的になるよう試みました。もし読者にそのような印象を持ってもらえたのであれば、今号の編集委員会として嬉しいかぎりです。